

類義表現の意味の違い
－同一の事態・事物をいかに捉えるか－
 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 鷺見 幸美

0. はじめに

認知言語学は、言語の意味は客観的な外界を直接反映したものではなく、私たち言語の使い手がそれを主観的にどのように捉えたかという認知的な作用も含むと考える。同一の事態・事物であっても、捉え方が異なれば、それを描写する仕方も異なるのである。

本発表では、認知言語学のこの基本的な考え方を、5組の類義動詞（「出る・入る」、「渡る・横切る」、「通る・過ぎる」、「抜ける・通る・出る」、「見抜く・見通す」）の意味の違いを通して、見ていく。

1. 「出る」と「入る」

；「中から外へ」「外から中へ」？

(1) 駐車場から国道に {出よう／入ろう} とした乗用車が右側から来たオートバイと衝突した。

(2) {前の車を追い越そうとして／衝突のはずみで} 対向車線に {出た／入った}。

(3) この道をまっすぐ行くと、岐阜県に {出る／入る}。

：「中と外」は客観的に（＝物理的に）規定されるものではない。

(4) 太郎が庭に {出て／入って} 来た。／太郎が庭に {出て／入って} 行った。

(5) 運動場に {出て／入って} 野球をする。

：「中と外」は、「話し手の位置」、「描写の中心」によって決まるわけではない。

(6) 筆箱（消しゴム）、水筒（お茶）、カバン（本）、風呂（湯）、お椀（ご飯）、小皿（醤油）、引出し（写真）、口（食べ物）、頭（情報）、犬小屋（犬）、家（人間）・・・

：容器によって連続的な空間に境界ができる。その境界によって、「内側」と「外側」という領域ができる。

＝「容器」は境界を内包している。

(7) 彼のことで頭（の中）がいっぱいだ。

(8) 夢の中ではうまくいったのに。

(9) ただいま青春まっただ中。

(10) 犬に愛情を注ぐ。

(11) 渦中に身を投ずる。

：実際にはモノでないものが、「容器」に見立てられる。

＝モノでないものが、境界を有するモノとして捉えられる。

(12) やかんから湯気が出ている。

(13) 毎朝8時に家を出る。

(14) カバンに本が入っている。

(15) 勝手に私の部屋に入らないで。

：「容器の外側から内側へ」「容器の内側から外側へ」という移動が、「出る」「入る」で表される。

(16) 中で遊ぼう。／田中さんは中にいる。

(17) 外で遊ぼう。／田中さんは外にいる。

(18) 囲われていて、範囲が限られている（屋外より狭い）。出入りをするための出入り口を有している。太陽光や風雨から守られている。何らかの目的を持って建設されていて、内側でその目的の行為が行われる。拠点であり関心が向けられやすい。等等

：物理的空間における「容器」のプロトタイプ¹と百科事典的知識、スキーマの抽出²

¹カテゴリーのメンバーは、その「らしさ」において程度さがあり、中心的で典型的なメンバーをプロトタイプと呼ぶ。プロトタイプは、カテゴリーのメンバーとして想起されやすい。カテゴリーはプロトタイプから周辺のメンバーへと広がる放射状の構造を持ち、周辺のメンバーはプロトタイプから何らかの点で逸脱している。

- (19) 校舎から運動場に {出る／入る}。運動場から校舎に {出る／入る}。
 (20) 高速道路から県道に {出る／入る}。県道から高速道路に {出る／入る}。
 : 「境界 (= 出入口)」をその一部とする領域が「中」として認識されやすい。
 = 「中」とされる領域は、「境界を内在させた領域」、つまり、「有界な領域」だと言える。
- (21) 参加者の中には、後方の安全を確認しなかったり、一時停止をしないで狭い道から広い道に出たりする人がおり、注意を受けていた。(読売新聞 2004. 04. 11 [ヨミダス文書館])
 (22) 帝釈天の参道を通して、広々とした江戸川河川敷に出ると、演歌で有名な「矢切の渡し」が見えてくる。(読売新聞 2003. 12. 22 [ヨミダス文書館])
 (23) 山頂から北へ下り、中腹の土産売り場が並ぶ参道に出ると、その一角にガラス細工店「フック」がある。(読売新聞 2002. 11. 10 [ヨミダス文書館])
 (24) 白装束の集団「パナウェーブ研究所」の車列は九日午前十時すぎ、国道 158 号線の油坂峠を越え、岐阜県から福井県に入った。関連施設のある福井市を目指しているとみられる。(読売新聞 2003. 05. 09 [ヨミダス文書館])
 (25) 自宅近くの水田で土を耕していたが、作業を終え農道に出た際、運転を誤ったらしい。(読売新聞 2003. 03. 12 [ヨミダス文書館])
 (26) 事故は第二コーナーを過ぎ、直線に入る直前で発生。ボートの最高時速は約八十キロに達するという。(読売新聞 2004. 03. 29 [ヨミダス文書館])
 : 客観的には「境界」を内在させていなくとも、話者が「有界な領域」として捉える動機は存在する。

⇒出る：＜有界な領域から＞＜隣接する空間に＞＜移動する＞
 入る：＜隣接する空間から＞＜有界な領域に＞＜移動する＞

「出る」と「入る」の共通点

: 境界を越えて移動することを表わす。

「出る」と「入る」の相違点

: 「出る」は移動元が有界な領域として捉えられるが、「入る」は移動先が有界な領域として捉えられる。

2. 「渡る」と「横切る」

; トンネルは渡れない? 横方向はどの方向?

- (27) 途中、信号機のない場所で二車線の道路を横切るのですが、ふだんから車の通行量が多く、なかなか渡ることができません。(読売新聞 2004. 07. 28 [ヨミダス文書館])
 : 「横切る」と「渡る」を入れ換えても、客観的事実は変わらない。
 (28) 地下道を {横切ろう／渡ろう} としたら、なぜか注意されてしまった。
 : 「横切る」方向と「渡る」方向は異なる。
- (29) {道路／横断歩道} を渡る。／ {川／橋} を渡る。
 (30) (尾道から) しまなみ海道を渡って今治市に入る。
 (31) {*恵那山トンネル／青函トンネル} を渡る。
 : 「渡る」は、トンネルの端から端への移動ではなく、隔てられた二空間の移動を表す。
- (32) (瀬戸内海を) {対岸／四国} に渡る。
 (33) ?? 瀬戸内海を渡ったが、四国には渡らなかった。
 : 「渡る」は、ある領域を通過することと、その領域に接する領域に到達することが同時に成立する。
- (34) 車の間を縫って、なんとか渡った。

²プロトタイプと X の間の何らかの共通性・類似性 (スキーマ) の抽出を伴って、X がカテゴリーに組み込まれる。

- (35) 少し流されはしたが、向こう岸まで泳いで渡ることに成功した。
:「渡る」は、直線や最短距離の移動である必要はない。

→「渡る」の移動領域は隔てられた二つの空間により規定され、移動主体がその一方の空間から他方の空間へ移動することを表す。

- (36) 横断歩道を {渡る／*横切る} には遠回りが必要なため、車道を {横切る／?渡る} 人が目立つ。
(37) 国道 1 2 号で、ワゴン車が対向車線を横切り、路外の斜面を約三メートル転落した。
(38) {??対岸／*四国} に横切る。
:「横切る」は、隔てられた二地点間の移動を表すのではない。

- (39) 仁徳天皇陵の南に広がる太仙公園を横切ると、そこは墳丘のなだらかな優美な印象を受ける履中天皇陵。(読売新聞 2003. 09. 28 [ヨミダス文書館])

- (40) 大会は三十一日午前十一時(ハーフマラソンは同三分)に県庁前をスタート。太分市を東西に横切り、ゴールとなる市営陸上競技場を目指す。(読売新聞 1999.10.31 [ヨミダス文書館])
:「形そのものの特徴に基づいて縦・横が決まっている」とは言えない。主軸・横軸は客観的に規定されるものではない。

- (41) {道路／ホーム／テニスコート} を横切る。
:「相対的に短い方向の移動」であると同時に、「方向性のあるモノの動きが想定でき、その軌道と交差する軌道を描く、一方の端から他方の端への移動」。

- (42) {車の前／ブランコの前} を横切る。

- (43) 流れを横切って泳ぐには、上流に対して四十五度、対岸方向に体を傾ける。そうすると、水圧を横方向への推進力にすることができる。実際、泳いでみると約二十メートル離れた対岸に難くたどり着いた。(読売新聞 2003. 11. 25 [ヨミダス文書館])

- (44) また、交通頻繁な海域を夜間に横切る時、自動操縦装置に切り替えたまま見張りを怠って衝突事故を起こした遊漁船もあった。(読売新聞 1997. 08. 02 [ヨミダス文書館])

- (45) 紗野さんは、寺田さんの後を約五メートル離れて滑っていたという。細井さんは、寺田さん親子の間を無理に横切ろうとしたらしい。(読売新聞 2004. 01. 10 [ヨミダス文書館])
:「方向性のあるモノの動きが想定でき、その軌道と交差する軌道を描く、一方の端から他方の端への移動」。

- (46) のんびり座っている当方の目の前を、空席を探す客がおかまになしに横切り、ついには足を踏んづけられてしまう始末に。(読売新聞 1996. 08. 28 [ヨミダス文書館])

- (47) 両国の国技館にほど近い同愛記念病院。朝のロビーには、鬘(びん)付け油のにおいを漂わせ、診療開始を待つ力士の姿も見える。その外来患者たちの前を、資料を小わきにしたりした医師たちが足早に横切っていく。(読売新聞 1997. 02. 20 [ヨミダス文書館])

:「横切る」軌道と交差する動きはない。

:人間の進行方向は(基本的に)前方である。「～(人)の(目の)前を横切る」は、「～(人)」の進む軌道と交差する軌道を描く、視界の一方の端から他方の端への移動を表す。

- (48) 買い物の途中、目の前を虫が横切った瞬間、スズメが空中キャッチ！(読売新聞 2003. 10. 08 [ヨミダス文書館])

- (49) 天文研究グループの一員として観測していた際、西寄りの天空に輝く木星にレンズを向けていた午前三時ごろ、左上方から右斜め下に横切る流れ星を偶然撮影した。(読売新聞 2001. 11. 30 [ヨミダス文書館])

:道案内矢印「↑」は前方に進むことを示す。前後方向は上下方向に転写される。左右方向は、人間の進行方向と交差する。

- (50) {グラウンド／運動場／広場／境内／居間} を横切る。

:「形」は様々であり、相対的に短い方向は決められない(場合も多い)。「方向性のあるモノの動き」が想定できない。

- (51) 「ここは聖なる場所。子供たちもむやみに境内を横切ったりしないんですよ」。(読売新聞 2004. 06. 19 [ヨミダス文書館])
- (52) 同省や県教委によると、男子生徒が放課後、部活動で使っているグラウンドを横切ったため、この教諭が注意した。(読売新聞 2002. 12. 26 [ヨミダス文書館])
: 移動領域の形状、動きの方向は問わないが、中心（に近い部分）を通らなければ「横切る」と言えない。本来中心部分は「横切る」ことが想定されていない（他に中心となるコトがある）。
- (53) 小金井署の調べによると、荒井さんは植木畑の隣の墓地に墓参りに行く際、近道をしようと畑を横切り、誤って転落したらしい。(読売新聞 1996. 07. 19 [ヨミダス文書館])
- (54) 同市立高砂小は、これまでは近所の人がグラウンドを横切って近道していたが、これを遠慮してもらって看板を出した。(読売新聞 2001. 06. 16 [ヨミダス文書館])
: 「横切る」ことによって、(想定される) 中心的事態の展開を邪魔する。

→ 「横切る」の移動領域は何らかの動きが想定され、移動主体はその動きの軌道と交差するような軌道を描いて移動する。

- (55) 横取り、横やり、横しま、横恋慕
: 「横」は、「正しくないこと」「無理にすること」。

⇒ 渡る: <二つの空間に挟まれた領域を><一方の端から他方の端に移動して><その領域に接する空間に行き着く>
横切る: <何らかの動きが想定される領域を><その主となる動きの軌道と交差するような軌道を描いて><一方の端から他方の端へ移動する>

「渡る」と「横切る」の共通点

: ある領域を一方の端から他方の端へ移動することを表す。

「渡る」と「横切る」の相違点

: 「渡る」は移動領域が「二つの空間に挟まれた領域」として捉えられるが、「横切る」は「何らかの動きが想定される領域」として捉えられる。

3. 「通る」と「過ぎる」

; 経路とは? 通過とは?

- (56) 名古屋を {通った/過ぎた} と思ったら、もう京都だった。
- (57) 帽子をかぶった高学年と思われる女の子に続き、まだ入学したばかりの子供たちが寄り添うように、手をつないで私の車が過ぎるのを待っている。私は右に曲がるためいったん停止し、小学生たちが通り過ぎるのを待った。(読売新聞 2004. 07. 02 [ヨミダス文書館])
: 「通る」と「過ぎる」(と「通り過ぎる」)を入れ換えても、客観的事実は変わらない。
- (58) {貨物列車/トラック} が線路を通る。
- (59) 栄から広小路通を通って、名古屋駅に出る。
- (60) 大津通を北に走っていくと、広小路通を通って、そのあと錦通を通る。
: 「通る」は、ヲ格で示された線状物に沿った（線状物が伸びる方向の）移動を表すとは限らず、「客観的な線状性」ではなく、我々の有する知識に基づいて解釈される。
: 「経路」という概念は、「移動」が想定されて生じる。
- (61) 横断歩道のない所で道を {横切って/*通って} はいけない。
- (62) a. ?? 東名高速を東京から名古屋まで通った。
b. 東京から名古屋まで東名高速を通った。
: 経路の一部として捉えることが適当でない場合には容認度が低い。

→ 「通る」の移動領域は、「移動の経路の（起点、着点を含まない）一部」として捉えられた領域である。

: ある領域が、「移動の経路の（起点、着点を含まない）一部」であれば、移動主体はその領域を

通過することになる。

(63) 五合目を {通った／過ぎた} 頃は、声を出すこともできないほどでした。

(64) 大木の横を {通って／過ぎて} 丘を上がる。

(65) 国道 373 号線を {通り／過ぎ}、兵庫県を抜けた。

(66) 商店街を {通り／過ぎ} 駅までの約 200 メートルを歩いた。

: 「通る」は移動領域が線的に捉えられるのに対し、「過ぎる」は点的に捉えられる。

(67) 畑の前を {通ろう・通りたい・通れ／*過ぎよう・*過ぎたい・*過ぎろ}。

: 「通る」は意志動詞であり、「過ぎる」は無意志動詞である。

(68) 第 1 グループはもう五合目を {通って／過ぎて} います。

(69) {30 分間／30 分で} 名古屋を通る。／ {*30 分間／30 分で} 名古屋を過ぎる。

: 「通る」は継続動詞であり、「過ぎる」は瞬間動詞である。

(70) 大好きな選手の優勝パレードの車が通るのをいまかいまかと 3 時間も待っている。

: いなくなるのを待つのではなく、目の前に存在するのを待つ場合には、「通る」がよりふさわしい。

→ 「通る」は「移動という行為の過程」を表すのに対し、「過ぎる」は「移動の結果」を表す。

(71) 列車は {駅を 200 メートル過ぎた地点／駅から 200 メートルの地点} で停車した。

: 「過ぎる」は、「移動」を背景として、「どこに位置するか」を表し、通過点からの距離を明示することができる。

→ 「過ぎる」の移動領域は、移動の結果位置する地点を示すための基準点として働く。

⇒ 通る: <ある領域を経由して><その先へ進む>

過ぎる: <進んだ結果><ある領域より先に位置する>

「通る」と「過ぎる」の共通点

: ある領域の先に進むことを表す。

「通る」と「過ぎる」の相違点

: 「通る」の移動領域は、「移動と関連づけられた経路の一部」として、線的に捉えられる。一方、「過ぎる」の移動領域は、移動主体がその領域を通過した結果位置する地点を示す基準点として、点的に捉えられる。「通る」は「移動の過程」の際立ちが高く、「過ぎる」は「移動の結果」の際立ちが高い。

「移動」には「過程」と「結果」を構成要素とする。話者は、主観的に、移動の全てに焦点を当てて捉えることも、その部分である「過程」や「結果」に焦点を当てて捉えることもできる。「移動」の「過程」に焦点を当てた場合には「通る」、「結果」に焦点を当てた場合には「過ぎる」が選ばれる。しかし、いずれも背景の要素は「移動」全体であり、意味の一部に「過程」と「結果」を含むので、言い換えが全く不可能ではない。また、全体に焦点を当てた場合には、「通り過ぎる」が選ばれる。

4. 「抜ける」と「通る」「出る」

; 有界? 非有界?

(72) 六時五分前、うきうきした気持ちで新宿駅をおり、ながい地下道をぬけて、紀伊国屋に入る出口を出た。(遠藤周作『悲しみの歌』新潮文庫 p.275)

(73) 列車が動き出し、数時間がたち、夕刻、山形に着いて、降りる人の列の最後に並んで改札口を出て、そこでやっと落ち着きを取り戻しました。(中略) 安い旅館を捜そうと考えて、私は駅前の繁華街を抜け、蔵王行きのバスの発着所まで歩いて行きました。(宮本輝『錦繡』新潮文庫 p.103)

(74) 恵子はそんな気がして、出かけるのをためらったが、ひざまずいているチェップのそばから無言で離れ、階段を降り、中庭を通過て玄関へ行った。(宮本輝『愉楽の園』文春文庫 p.16)

(75) デパートの地下からエスカレーターで一階に上がり、売り場を通過てまた心斎橋筋に出た。(宮本輝『道頓堀川』新潮文庫 p.96)

- (76) (前略) Pan と Bear は夜の街に出ていくのでありました。そして歩き慣れたグランブラスの道を通らず、近道と思った細い道を抜けようとした時のことでした、(後略)

(<http://village.infoweb.ne.jp/~fwbc0319/pan/F1/PC-F1Bel/PC-WtBel12.html>)

: 「抜ける」と「通る」を入れ替えても、客観的事実は変わらない。

; 「通る」同様、<ある領域を経由して><その先へ進む>ことを表す？

- (77) 電車はあと 30 分で名古屋を {通る／抜ける}。

- (78) 車は 30 分間名古屋を {通る／*抜ける}。

: 「通る」は時間枠表現とも時間幅表現とも共起するが、「抜ける」は時間枠表現としか共起しない。

- (79) 次は私のリクエストでナナちゃん人形へ向かう。名古屋駅の向こう側になるのだが、アニメイトの近くの通りを進むと、うまいこと駅の向こう側に抜けられる。(*通れる)

(<http://www1.plala.or.jp/MUSASHI/game/senti/off6.htm>)

- (80) a. 作業用林道を通して、山向こうの町に抜ける。

- b. *作業用林道を山向こうの町に通る。

- c. 作業用林道を山向こうの町に抜ける。

: 「通る」は二格名詞句と共起しないが、「抜ける」は共起する。ヲ格名詞句と二格名詞句の共起も可能である。

→ 「抜ける」は、ある領域の通過と同時に、隣接する空間への到達が成立する。

- (81) 熊吾は煙草を喫うのをあきらめて立ちあがり、松林を抜けて山道に出た。(宮本輝『流転の海』新潮文庫 p.79)

- (82) 小船が密集する一角を抜けると、幅広い河に出た。(宮本輝『愉楽の園』文春文庫 p.366)

- (83) 彼は路地を抜け、通りに出るとタクシーを止め、「オルトリープ・ガッセ」と言った。(宮本輝『ドナウの旅人(下)』新潮文庫 p.57)

: 「抜ける」の移動領域は有界な領域として捉えられる。

; 「抜ける」は、「出る」同様、<有界な領域から><隣接する空間に><移動する>ことを表す？

- (81) ‘ 熊吾は煙草を喫うのをあきらめて立ちあがり、松林 {??を／から} 山道に出た。

- (82) ‘ 小船が密集する一角 {??を／から} 幅広い河に出た。

- (83) ‘ 彼は路地 {??を／から} 通りに出るとタクシーを止め、「オルトリープ・ガッセ」と言った。
: 「出る」は、ヲ格で示された領域内の移動が表されない。

→ 「抜ける」の移動領域は、「通る」同様、移動と関連づけられて「線的」に捉えられ、「出る」同様、境界を内包する「有界な領域」として捉えられる。

- (84) 勤めがえりのサラリーマンたちの流れをぬけて、折戸はこれから社に戻って書かねばならぬ原稿のことを考えた。(遠藤周作『悲しみの歌』新潮文庫 p.63)

- (85) 本当に、上手い人はオートバイを傾けるだけが能じゃないってことを良く知っているらしく、時にオートバイを必死に傾けてコーナーを抜けている人の外側からサッと抜いていってしまったらしいのです。(<http://www.tama.or.jp/~jtn/st971205.html>)

- (86) 早く倒木帯を抜けようと先を急ぐ。(<http://www1-1.kcn.ne.jp/~k-hunter/01/67/67.html>)

- (87) トラロープがある、あまり頼っちゃいけないって、そんなこと言ったって頼りにするのはね、この、この、よいしょと、やれやれ、どうにか岩場を抜けられたよ。

(<http://www.asahi-net.or.jp/~RP3M-NGOK/report/kanmuriyama.htm>)

- (88) 交差点で左折車を追い抜くときにも、自分の挙動を後続車に知らせましょう。しかし、左折車もすんなりと交差点を抜けられるとは限りません。歩行者をよけるために、急停止することも考えられますから、(後略) (<http://www.zephyr.dti.ne.jp/~cyclisme/bicycle/manner/syosin.html>)

: ある物理的空間が、「動きが自由ではない、先に進むのに時間がかかる、特別な注意を要する、特別な技術を要する、先に進めない可能性がある、」等の要因に基づき、話者が主観的に「経路上の障害」として捉える。その意識が「有界な領域」を定める。

- (89) a. 距離 : 広場、松林、岐阜県、…
 b. モノの密集 : 人込み、渋滞、雑踏、繁華街、…
 c. 通路の不整備 : 山、岩場、倒木帯、(地下道、トンネル、…
 d. 移動の困難さ : 交差点、コーナー、路地、細い道、…
 e. 監視下 : 改札口、検問、関所、料金所、…

⇒抜ける：＜経路上の障害である領域に入り＞＜その中を進んで＞＜その先の領域に出る＞

- (90) a. *六時ぐらいには東名高速を通れるだろうか。
 b. 六時ぐらいには東名高速を抜けられるだろうか。
 (91) まもなく高崎の市街を抜けようか、といった所によりやく「COCO'S」と書かれた看板を見つけた。(http://www1.plala.or.jp/tsuu/drive/dialy/ikaho.htm)
 (92) 一班が出発して5分後、第2班が出発。(中略) 柏を抜けたあたりでY田氏の給油のためGSへ。
 (http://www1.odn.ne.jp/kiyomiya/members/0004.html)
 : ある領域全体の通過ではなく、その領域の終点の通過が表されている。「領域の外から中への移動」「領域内の移動」に比べ、「領域の中から外への移動」の際立ちが高い。

⇒通る：＜ある領域を経由して＞＜その先へ進む＞

出る：＜有界な領域から＞＜隣接する空間に＞＜移動する＞

抜ける：＜経路上の障害である領域に入り＞＜その中を進んで＞＜その先の領域に出る＞

「抜ける」と「通る」の共通点

: ある領域を経由して、その先に進むことを表す。移動領域は、線的に捉えられる。

「抜ける」と「通る」の相違点

: 「通る」は移動領域が、「経路の一部」として捉えられる。それに対し、「抜ける」は、有界な領域である「経路上の障害」として捉えられるため、「領域の中から外への移動」の際立ちが高い。特に、障害意識が高い場合（移動領域が「移動」が領域内で滞るような程度の高い「障害」として捉えられた場合）には、「領域の中から外への移動」の際立ちが高くなる。全体に焦点を当てる場合には、「通り抜ける」が選ばれる。

- (93) 事故車両の横を {通って／抜けて／通り抜けて}、目的地へと急いだ。

「抜ける」と「出る」の共通点

: 有界な領域から、隣接する空間に移動することを表す。

「抜ける」と「出る」の相違点

: 「抜ける」は、領域内の移動も表すが、「出る」は表さない。また、「抜ける」は、有界な領域が経路上の障害として捉えられるが、「出る」はその点を問題にしない。

5. 「見抜く」と「見通す」

: 見えない理由は？

- (94) 「約束を破るのは、犬猫に劣るものだよ。犬や猫は約束などしないから、破りようもない。人間よりかしこいようなものだ」／（だけど、大した約束でもないのに）／信夫は不満そうに口をとがらせた。／「信夫。守らなくてもいい約束なら、はじめからしないことだな」／信夫の心を見通すように貞行はいった。(『塩狩峠』100 [新潮文庫の100冊])
 (95) 太郎は、富山駅に下り立った。今度こそ、あの男は、ここで下りるだろう、と思って、太郎はその後ろ姿を目で追っていたが、予想に反して、彼は改札口の方へ出る気配はなかった。それのみならず、その男は、太郎の行先を見抜いたように、上り線のホームに歩いて来て、しかもホームのうんと端の方でしぶとく列車を待つつもりでいるらしかった。(『太郎物語』894 [新潮文庫の100冊])
 (96) 本心・本質・真相・真意・魂胆・意図を {見抜く・見通す}。
 : 「表面には表れておらず、視覚的には認知できない物事」が、「見抜く」対象にも、「見通す」対象にもなる。

- (97) 虫はいるはずなのに、葉の陰に隠れていて見えない。
：他のものの陰に隠れているものは見えない。
- (98) 虫はいるはずなのに、保護色をしているから見えない。
：他のものと一体化しているものは見えない。
- (99) 「これ何?」「ハンバーグ」「それは見ればわかる。そうじゃなくて、何のハンバーグ?」「イワシ」
：形や色は見てわかるが、材料（形のない構成物）は見てもわからない。

- (100) 家の裏にお寺がある。／表裏一体
- (101) まっすぐ行くと、お寺の奥にお墓がある。／押し入れの奥に古いアルバムがしまっている。
- (102) 表口と裏口：家の表に出る・裏に出る／家の表・裏にある
：「～の裏」や「～の奥」は、「～」と別の存在物であることも、「～」の一部であることもある。

- (103) 言葉の奥にある本心を知る
：言葉の背後に隠された（隠れた）本心（「本心」は「言葉」とは別の存在物）
言葉の中に隠された（隠れた）本心（「本心」は「言葉」と一体化した構成物）
- (104) 事件の奥の奥にある真相を知る
：事件の背後に隠された（隠れた）真相（「真相」は「事件」とは別の存在物）
事件の中に隠された（隠れた）真相（「真相」は「事件」と一体化した構成物）

⇒ 「見通す」と「見抜く」の共通点

：「隠れていて、直接的に捉えられない物事を判断する」

「見通す」と「見抜く」の相違点

：1) 「隠れていて、直接的に捉えられない物事」の捉え方

「見通す」：「視覚的・言語的に捉えられる物事」とは別の、その背後に隠れた存在物」として

「見抜く」：「直接的に捉えられる物事」と一体化した、その内部に隠れた存在物」として

2) 判断の方法

「見通す」：情報に基づく（外的基準）

「見抜く」：直感や知恵に基づく（内的基準）

- (105) やわらかな、人の心の内側を見ぬく澄んだ眼がこちらをじっと見つめている。(『沈黙』279 [新潮文庫の 100 冊])
- (106) 私は髭も剃らず、汚れた靴を履き、カッターシャツの首筋には垢をつけて、しかも泥のような顔色をしていました。誰が見ても、私という人間の置かれている境遇はひと目で見抜けたことでしょう。(『錦繡』216 [新潮文庫の 100 冊])
- (107) 「I am all right.」／と言ったら、顔つきから私がそれほど all right でもないことを見抜いたらしく、／「それなら、とにかくテレビと毛布とバスタオルを貸してあげよう」／と言ってくれた。(『若き数学者のアメリカ』110 [新潮文庫の 100 冊])
- (108) 源氏は、花散里の観察眼のするどいのに、思わず微笑した。この女人は、無垢な心だけに、すんなりと物の本質を見ぬくのかもしれない。(『新源氏物語』1479 [新潮文庫の 100 冊])
：視覚的に認知できるものを見て、視覚的に認知できないものを判断する。
- (109) 確かに人の生き方は自由だと思います。但し、物事を捉えるとき、その物は球であって、表面しか見えません。虫はもとより、裏側まで見抜くことはなかなか出来ません。もし、見抜力があつたとしたら、その力は「優しさ」です。皆が心を広げて、他人を思いやる優しさを取り戻したいものです。(http://www.h2.dion.ne.jp/~s-kubota/hitonoyasashisa.htm)
：「表面・中・裏側」＝一体化して球をなす。：「一体性」
- (110) 手口・手抜き・偽装・つじつま合わせ・疑惑・粉飾決算・芝居・見せかけだけの技・うわのそらのやさしさを見抜く
：偽装であることがすぐにわかるような偽装は偽装ではない。どの部分に偽装があるか、わからない。「偽装は偽装の一部であり、偽装の中に隠れている」
- (111) 企み・偽計・計画・魂胆・本心・底意・心・腹の中・内心・心の迷い・感情・心理・心の内

- 側・気持ち・心情・意中・意図・思い・考え・思案・野望を見抜く
 : 感情は心の中にあって見えない。「心は人間の体の一部分であり、体の中に隠れている」
- (112) 本質・人間・気質・性格・才能・素質・能力・能力不足・価値・正体・過去・境遇を見抜く
 : (ある人間の) 過去は見えない。「その人の経験すべてがその人を構成している。」
 → 「一部分として中に埋もれている」「質的な構成物である」ために捉えられない。
- (113) 3 つめは、元気な人にはチャンスが必ずめぐってくるということです。チャンスは自ら手を伸ばす人へ前向きに行動する人に用意されるのです。チャンスをチャンスと見抜くためにも、前向きに発想し行動してください。(バンダイグループ入社式広報資料)
 : チャンスは遭遇する無数の物事の中に埋もれているために、チャンスだとわからない。
 「無数の物事の中のある物事(機会)がチャンスであると判断する。」
 我々は、遭遇する物事を視覚でのみ捉えているわけではない。
 → 「直接的に認知できる物事」と「その内部に一体化した物事」
- (114) 「善く隠れる者は善く生きる」という言葉には、生活における深い智慧が含まれている。隠れるというのは偽善でも偽悪でもない、却って自然のままに生きることである。自然のままに生きることが隠れるということであるほど、世の中は虚栄的であるということをしかりと見抜いて生きることである。(『人生論ノート』214 [新潮文庫の 100 冊])
- (115) 太宰はそう信じ、それを生涯かけて実行した。立身出世はもとより、自己完成、自己確立も、安息した幸福にひたることも自らに禁じた。えらくなりたい、高められたい、立派になりたい、という上昇指向的モラルや感性は結果的に悪しき秩序に迎合し、それを強めるだけであり、そういう上昇指向によっては真の反逆は不可能だと見抜いていたのだ。(「人間失格解説」275 [新潮文庫の 100 冊])
- (116) 恋愛は神聖だけれども罪悪だという先生は、同時に〈自由と独立と己れとに充ちた現代〉を生きる代償として、ひとは孤独と寂寞に耐えねばならぬことを見抜いている。(「こころについて」587 [新潮文庫の 100 冊])
 : 「真理」は無数に存在し、「何が真であるか」に答えはない。成立し得る無数の命題(価値判断)の中に、「真理」は隠れている。
- (117) やっぱり、生き物って、相手が何を考えてるかとか、相手がどういう質のものかって見抜かないと生きてこれなかったわけで、私たちの脳の中には相手の本質を一発で見抜いちゃうところがある。(プロフェッショナル仕事の流儀・キャスターコラム・モギケンのプロフェッショナル脳)
- (118) 信長は、人間の才能を見ぬく点では、ほとんど神にちかいいほどの能力をもっていた。(『国盗り物語』2207 [新潮文庫の 100 冊])
- (119) その生徒の袴から背は泥と藁にまみれていた。その姿を視野に納めた時からぎんは女の鋭い直感で全てを見抜いていた。(『花埋み』203 [新潮文庫の 100 冊])
- (120) 貴方が素晴らしい人だということは初めからわかっていたんですよ。年考いたおばあちゃんというのはそういうことを見抜くことができるんでね。(『若き数学者のアメリカ』230 [新潮文庫の 100 冊])
 : 「人間の脳のつくり」「一種の特別な能力」「直感」「人生経験によって培われた知恵」による判断
 ⇒ 「直感や知恵」
- (121) 「アモン! 無事だったのね!」「お化粧……臭い。」ルチアに白々しくも抱きつかれ、アモンがその匂いの強さに眉をひそめているシーンが左の写真。色と欲に溺れたルチア先生の変貌を、嗅覚で即刻見抜ぬいたアモンの心情を表した、印象的なシーンです。アモンが鼻を子犬のようにぴくつかせる瞬間にもご注目あれ!
<http://my.reset.jp/~yuhto-ishikawa/kagakugijutukyokuhen.html>
- (122) スープを飲んで、{調味料・化学調味料が使われていること}を見抜いた。
- (123) 演奏を聞いて、{演奏者・太郎が演奏していること}を見抜いた。
- (124) 生地を触って、{繊維・100%シルクでないこと}を見抜いた。
 : 聴覚や触覚、味覚、嗅覚に基づく判断が、「見抜く」で表されることもある。
 : 直接的に認知できる物事(人間・スープ・演奏・生地)の内部に一体化していて捉えにくい

物事（「人間性・調味料・演奏者・織糸」）が何であるか（「変貌していること・化学調味料が使われていること・太郎が演奏していること・100%シルクでないこと」）を、直感や知恵によって、判断する。

⇒見抜く：＜直接的に認知できる物事の内部に一体化していて捉えにくい物事が何であるかを＞＜直感や知恵によって＞＜判断する＞

- (125) 「もっとはきはきと自分の思ったことを言わにゃ、あかんで。心の中なんて、親子でもそう見透せるもんやないからな。そのために言葉っていうもんがあるんやないか」(『塩狩峠』194 [新潮文庫の 100 冊])
- (126) 目は心の窓／目は口ほどにものを言う／目に語らせる／目が嘘だと言っている
：本来、人間にとって「心（気持ち）」は目に見えない。相手に気持ちや事実を伝える最も有効な手段は言葉である。しかしながら、言葉を使わなくとも、「目」が心（気持ち）を伝えることもある。そして、伝えるつもりはなくとも、「目」が伝えてしまうことも、言葉以上に「目」が有効な手段となることもある。
- (127) 古い麦わら帽子をかぶって畑に立てば、農家のおじさんそのものだ。だが、人と話す時、笑っているような目で相手の目をじっと見る。その目は鋭く心まで見通しているようだ。一見のんびりと見えるが、普通の人とは違う何かを持っている人と思った。
(<http://www.ne.jp/asahi/mido/may/sibaju.htm>)
- (128) まるで己の心もちを見透しでもしたように、急に表情を変えたあの女が、じっと己の眼を見つめた時、——己は正直に白状する。(『羅生門・鼻』131 [新潮文庫の 100 冊])
：相手の目を見ることにより、相手の気持ちを判断する。
- (129) 真っ直ぐに俺の心の奥底まで見通そうとしていたかのような秀の瞳
(<http://www2.hi-nobori.net/milha/s/gosui/gp-02.html>)
- (130) 腹の底まで見通そうとする強い目線を受けても、さすが土方は冷静であった。
(<http://hp.kutikomi.net/sekien2/?n=page78>)
：「～まで」「真っ直ぐに」「強い目線」「鋭く」：普通の見方ではない。
：「判断の対象」は「目」でもあり、「心」でもあると言える（例えば、「目」を見て、「目が泳いでいる」と判断し、それに基づいて「動揺している」と判断する）。両者を連動させて判断できるのは、「目」と「心」がつながっているからであり、「判断の主体」にとっては、「心」が「目の向こう側にある」と捉えられているからである。
- (131) 相手がどんなに笑顔で接近してきてもその「裏」に隠された意図を冷徹に見通すことが肝心だ。
- (132) ナポレオンとアレクサンドル皇帝の接近による、ロシア貴族のフランス文化への憧れは、上流社会に幾つかのうわさの種をまいた。この時代をトルストイはこう描いている。／しかしその間も生活は、健康や、病気や、労働や、休息などの人間本来の関心や、思想だの、哲学だの、詩だの、音楽だの、愛だの、友情だの、憎悪だの、人それぞれの関心をふくめた、人々の現実の生活は、いつもと変ることなく、ナポレオン・ボナパルトとの政治的接近とか敵意とか、あらゆる内面的改革などはかわりなく、そうしたものの外でいとなまれていた。／この描写、実に人間生活を深く見通していると実感する。
(<http://www.eva.hi-ho.ne.jp/nishikawasan/asa/w&p2-3.htm>)
- (133) 算数・数学で学ぶ内容は、当たり前のことが多いし、すぐに生活に役立つものともいえないところがあります。しかし、そうした「単純明快」な事柄を学ぶことを通して、「ものごとの陰に隠れている本質的なところを見通す力」や「正しいことを正しい。間違っていることを間違っている。」といった思考力・判断力・論理力を教えます。
(<http://www.gakuto.co.jp/junsansu/17chyo.html>)
- (134) こうしたテーマは本来、歴史学の分野です。しかし「事実」を重視するあまり、「真実」を見つけにくくなっている面があるのではないのでしょうか。これに対して文学は、例えば『坊ちゃん』の「越後の笹船」から当時の没落士族の実像が透けて見えてきたように、そこから「真実」を見通すことができる学問だと私は考えています。文学そのものはフィクションですが、そこには作者の目に写った真実が隠されているからです。それを見つけていくことも、文学研究の醍醐味といえると思います。(<http://www.kawai-juku.ac.jp/prof/kokubun/kokubun-kouno.html>)

:「視覚的に得られる情報」と「その背後に隠された物事」は、「目」と「心」に限らない。

(135) 言葉の {奥／裏} にあるもの

(136) お客様自身が、漠然としている段階から仕事が始まるケースが多いので、どんなものを構想したらいいか、相手の真意がどこにあるのか 先方が上手に答えられる質問事項を考えたり、時には話しやすい環境を整えたりするようにしています。また、お客様が語りはじめても、効果的なプランは、実はその「向こう側」にある場合もあるので、そこまで見通す力をひごろから心がけています。コピー一本にしても 聞いたことだけ書くのではなく、それ以上のことを書いてはじめて、お客様は「私の言ったとおりのおことが表現されている」と、感じるものだからです。(http://www.joetsu-p.co.jp/s_faq2005.html)

:「言葉」と「言葉に表すことができないもの」も、空間的に配置されて捉えられる。

◇「見通す力のある機械」と「見抜く力のある機械」の違い

(137) ポケットの中身も見通す、電磁波利用のボディチェック・スキャナー — 電磁波を使って衣服の中を透視し立体表示するという、その名も 3D ボディ・ホロ・スキャナー。

(http://www.lcarsmania.com/news.htm)

(138) 兵庫県篠山市周辺の黒大豆は「丹波の黒大豆」として全国的な知名度がある。ただ最近では種を中国に持ち込んで生育し丹波の黒大豆として販売する例が増えているとの指摘がある。

「放射光施設を使えば中国産はほぼ 100% 見抜ける」(同センター) という。(NIKKEI NET 2006/08/08)

「見通す力」: 物理的 (生地に隔てられ、人間の視力では見ることはできないものが、物理的に存在することを見る)

「見抜く力」: 質的 (人間の視力で物理的に存在することは見えても、それがどこで生産されたものであるかという質的なものを見る)

(121) ‘ ??色と欲に溺れたルチア先生の変貌を、嗅覚で即刻見通した。

(122) ‘ ??スープを飲んで、{調味料・化学調味料が使われていること} を見通した。

(123) ‘ ??演奏を聞いて、{演奏者・太郎が演奏していること} を見通した。

(124) ‘ ??生地を触って、{織糸・100%シルクでないこと} を見通した。

: 視覚的、あるいは、言語的な情報以外の情報、つまり、触覚や味覚、嗅覚に基づいて、「見通す」ことはできないようである。

: 「触覚や味覚、嗅覚で捉えられるもの」は、「形あるもの (存在物)」として捉えにくいために、「背後」といった空間配置に基づく概念化がしにくい。

(139) 「そやかて、老師は僕のしたことやと信じていやはるやろか」／「さあ」と忽ち鶴川の考えは窮した。／「ほかの人はどないに蔭口をきいても、老師だけは黙って見とおしてて下さるよって、安心しとったらええのや。僕はそう思うとる」(『金閣寺』178 [新潮文庫の 100 冊])

(140) お釈迦様は何もかも見通している。

(141) 特徴といえば、まるで何でも見通しているような大きな目を持つ獅子が、お囃子に合わせて勇壮に舞う姿であろう。(www.thr.mlit.go.jp/kansen/prmag/kansen/037/03tabi)

: 形あるもの (として捉えられるもの) が何か、何を情報とした判断であるかが明確ではない。

: 「他の人が信じていること」、「(私たちが視覚で捉えている) 世の中」などが、「形あるもの」、つまり、「目に見えるもの」として捉えられ、主観的にその背後に空間配置されたものを判断することが表されている。また、「老師」「お釈迦様」「獅子」は、特別な存在であり、特別な能力を有するものとして捉えられている。「判断をするための情報」を持たなくとも、判断ができることは、「特別な存在」であることの一つの証であるとも言える。

⇒見通す: <視覚的／言語的に得られる情報を基に> <その背後に隠された物事を> <判断する>

(142) 玄関から裏庭まで見通す。

(143) この国道は先までまっすぐ見通すことができる。

: 物理的に「向こうまで」見る。

(144) 独自の情報源や分析力により常に相場の先行きを見通している。

(145) 将来を見通して、福祉の仕事に転じた。

(146) 半年後の法案成立を見通している。

: 時間軸上の「向こうまで」見る。

◇「人間の内面」を「人間の表面と切り離された別の存在物」という「見通す」の捉え方の有標性

: 1) 「人間の内面は表面と一体化している」という「見抜く」の捉え方がより無標である。

2) 「将来は判断時の先にある」という「見通す」の捉え方がより無標である

(147) a. 非常に大きく高度に機能的な官僚組織のようになってしまったトヨタの新車開発システムではヤングマーケットの新車開発はできないと見抜いたのが奥田前社長で、別会社をつくり若いスタッフだけで WILL や bB などを開発したそうだ。

(<http://www.sound.jp/kokoromis/club/study/iddesign.html>)

b. 奥田会長は、トヨタの新車開発システムではヤングマーケットの新車開発はできないと見通した。

「できないと見抜く」: 現在の能力を判断する: 「組織」は何らかの能力(機能)を有する。能力(機能)は組織を成り立たせる重要な一部である。

「できないと見通す」: 将来的な展望を判断する: 時間的な展望の判断が優先されるのは、「組織と能力」は、「表面とその奥」といった捉え方がしにくいため。

(148) 襖のかけで、お万阿は、／(いっそ狐になりすませてさしあげようかしら)／とおもった。／(——されば／人間でなくなる。お万阿でなくなる。奈良屋の御料人様でなくなり、お万阿にかぶさっている人の世の制約が、はらりと解けてしまうわけだ。／奇妙。／まったく奇妙。／(そうすれば、庄九郎様のおひざの上で、いかに淫楽をはたらいても、あとで、——あれはお万阿ではございませぬ。有馬の奥之坊に巢食う狐でございましょう、といえるではないか)／ほたほと胸がときめいてきた。固いとは世間でいわれていても、お万阿は自分をよく知っている。／(よくよく私は男が好きじゃ)／しかしその男よりも、奈良屋の財産のほうがお万阿には大事なだけである。／(そう。狐になってしまおう)／狐の淫楽、ということになれば、庄九郎とこの有馬でいかな縁を結んだところで、それは浮世の害にはなるまい。／(あれは狐のしわざ。——)／それで済む。／お万阿は胸もとをおさえ、ふすまのかけでこれだけの思案をした。／一方、隣室の庄九郎。／百もお万阿の思案を見ぬいている。「狐であろう」といったのは庄九郎の軍略である。そうきめつけば、身代大事のお万阿は「奈良屋の後家」という束縛から解放される。／(あと腐れない淫楽ができると思い、裸か身になってわがひざに折り崩れるであろう)／そこまで見通したうえのことだ。(『国盗り物語』161 [新潮文庫の100冊])

6. おわりに

主要参考文献

影山太郎 (1980) 『日英比較 語彙の構造』 松柏社.

国広哲弥 (1982) 「クグル・ヌケル・モグル」、国広哲弥 (編) 『ことばの意味3』、平凡社、12-19.

国広哲弥 (1982) 「タテ・ヨコ」、国広哲弥 (編) 『ことばの意味3』、平凡社、233-240.

ジョンソン, M. (1991) 『心の中の身体』 菅野盾樹・中村雅之 (訳)、紀伊國屋書店.

杉本武 (1984) 「とおる・すぎる・ぬける—移動領域との関わりを中心に」 『日本語研究』 7、東京都立大学、3-11.

タイラー, A.・エバンズ, V. (2005) 『英語前置詞の意味論』 国広哲弥 (監訳)・木村哲也 (翻訳)、研究社.

田中茂範・松本曜 (1997) 『空間と移動の表現』 (日英比較選書6)、研究社出版.

谷ロー美 (2003) 『認知意味論の新展開メタファーとメトニミー』 (英語学モノグラフシリーズ20)、研究社.

辻幸夫編 (2002) 『認知言語学キーワード事典』、研究社.

早瀬尚子・堀田優子 (2005) 『認知文法の新展開 カテゴリー化と用法基盤モデル』 (英語学モノグラフシリーズ19)、研究社.

松本曜 (編) (2003) 『認知意味論』 (シリーズ認知言語学入門第3巻)、大修館書店.

山田進 (1982) 「ワタル・コエル・コス」、国広哲弥 (編) 『ことばの意味3』、平凡社、20-28,

山梨正明 (1995) 『認知文法論』、ひつじ書房.

ラネカー, R. (2000) 「動的使用依拠モデル」 坪井栄治郎 (訳)、坂原茂 (編) 『認知言語学の発展』、ひつじ書房、61-143.

リー, D. (2006) 『事例で学ぶ認知言語学』 宮浦国江 (訳)、大修館書店.